

参加と協働で次の10年を創る（リアル×デジタルの融合）

「未来つながるプラン」「（仮称）地域行政推進条例」「DX推進」の視点を踏まえ、区の目指す将来像について、幅広い議論を展開。リアルとデジタルの融合により様々な意見をつなぎ、次期基本計画を策定していく。

議 会

議論

情報共有

シンポジウム、5地域タウンミーティングなどにより、基本計画策定の機運醸成を図るとともに、区民意見を聴取

ステークホルダー意見集約

区と関わりのある団体や区民、事業者、既存の区審議会から、SNSを活用したアンケートなどにより、意見を集約する。

区民

団体

事業者

他の審議会

従来の区民意識調査やパブリックコメントも活用しながら、広く区民の意見を集約していく

デジタル技術を積極的に活用した情報発信

区

- 審議会答申、区民意見などを区がコーディネートしてまとめ、議会で議論いただきながら計画を策定
- 「基本計画等推進委員会」を中心に、若手職員などの意見も取り入れながら、全庁で議論を展開

諮問

答申

区民検討会議（ワークショップ）

公募、無作為抽出で、年代や地域を考慮して選出した区民30人程度のメンバーで、ワークショップ形式により複数回議論し、意見を取りまとめる。

公募

+

無作為

リアルとデジタルのハイブリット開催。区民が求める区民参加のあり方についてもテーマとし、区民の目線から議論を行う。

基本計画審議会

区民検討会議代表、各分野に精通した有識者（民間事業者、NPO等含む）の15人程度により議論し、区へ基本計画大綱を答申

デジタル技術を活用した新たな参加と協働について、調査・研究を進め、基本計画策定にあわせて試行実施するなど、デジタル・デモクラシーの深化を図る。